

目次

ご使用前に必ずお読みいただきたいこと	3
ダイビングに際しての注意事項	4
製品の特長	7
各部の名称とはたらき	10
時刻の合わせかた	11
日付の合わせかた	16
ダイビング機能の使いかた	18
ダイビング警告機能について	27
水深計測上の注意事項	30
用語の定義と説明	32
ログデータの呼び出しかた	35
ワンタッチアラームの使いかた	39
回転ベゼルについて	42
ルミブライトについて	43
電池についてのお願いとご注意	44
電池交換後のお願い(システムリセット)とご注意	48
使用上の注意とお手入れの方法	49
こんな時には	52
ダイバーアジャスターの操作	54
アフターサービスに関する事項	55
補修用性能部品に関する事項	55
製品仕様	56

ダイビングに際しての注意事項

必ずお読みください

この項目では、ダイビングの前、中、後での注意事項を記述してあります。それぞれの注意事項を守り、より安全なダイビングを心がけてください。

尚、この注意事項は後で述べる説明を十分理解しないと分からないものもありますので、理解できない項目についてはそれぞれの説明をよく読むことが必要です。

ダイビング前

時計が正常に作動しているか、バンド、ガラスに傷・ひび等がないか、バンドがケースに確実に固定されているか、チェックしてください。

時計が正常に作動しているかのチェック方法は？

時刻は正しく示しているか？

電池寿命切れ予告の「2秒運針」をしていないか？

ログデータ(2回分)の呼び出しが正しくできるか？

各針の「0位置」が合っているか？

深度針が「計測停止」表示位置(58分位置)を指していないか？

これらに異常が認められる場合は、ダイビングには使用しないでください。

携帯温度と水温とに極端な差(直射日光下に放置された時計を水中に入れる場合など)がある場合には、正確な水深計測はできません。ダイビングの前に時計を水に約5分程度浸してからご使用ください。

4

深度の数値は、海水(比重=1.025)を基準としていますので、湖水等の淡水で使用する場合など、実際に深度を知る場合には、補正して求める必要があります。

湖水など淡水で比重が1.00と仮定した場合

深度計 = 29.2m 実際の深度 = 29.2 × 1.025 / 1.00 = 30.0m

ダイビング中はどのボタンも操作はできません。

ダイビング後

ゴミ・砂・海水等を真水でよく洗い流してください。特にケースと回転ベゼルの間にゴミがたまると圧力センサーが正しく作動しなくなります。

水分感知センサー部に汚れ等が付着すると、水分感知に異常が発生します。特にきれいに洗ってください。

時計を洗ったあとはよく拭いてください。

洗い流せない場合は、お買い上げ店、またはセイコー取扱店にご相談ください。

時計本体がガソリン・アルコールなどの薬品に触れると、センサーの故障の原因になりますのでご注意ください。

6

2. ログデータの自動記録機能

最新2回分を自動記録！

ログデータが自動的に記録されます

・深度1.6m以深を感知した潜水については、自動的にそのログデータを記録します。

・最大深度、平均深度、潜水時間、潜水開始時刻の4大データを記録します。ログデータは潜水後、見ることができます

・最新2回分のログデータを呼び出し、見ることができます。

・一旦記録した「潜水開始時刻」は、時刻合わせをし直しても、その時刻を表示するようになっています。海外で潜水し、帰国後ログデータを見た際も現地の時刻で再現できます。

3. ダイビング警告機能

浮上速度警告

・18m/分相当を越える浮上を感知すると、1/10m針の動きと警告音とで知らせます。

・実際には10秒ごとの深度を比較し、約3mを越える浮上を感知した場合警告を發します。

計測範囲外表示 LIMIT

・水深計測の範囲をオーバーした水圧を感知した場合深度針が「56分位置」(LIMIT)を示します。

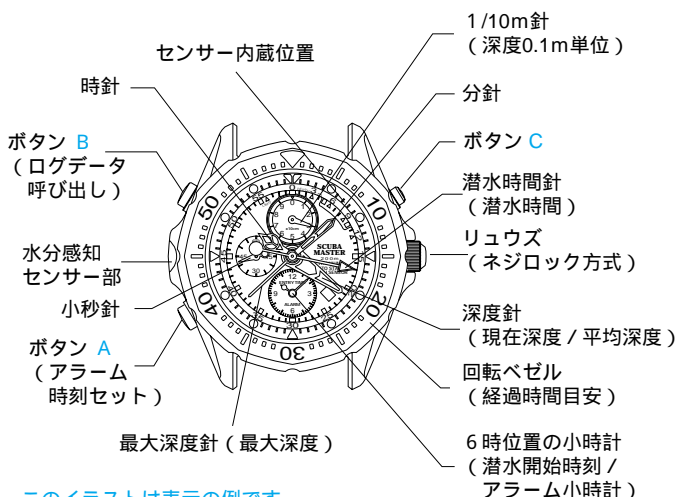
計測異常

・万一水深計測に異常が発生した場合、深度針が58分位置を示し異常が発生したことを知らせます。

・電池寿命切れが近づいた場合は、計測スタンバイ状態で深度針が58分位置になり、水深計測を行わないことを示します。

8

各部の名称とはたらき



10

ご使用前に必ずお読みいただきたいこと

警告

- ・本取扱説明書で指示された操作以外は絶対にしないでください。
- ・ヘリウムガスを使用する「飽和潜水」には絶対に使用しないでください。(空気ポンペを使用する潜水用)

注意

- ・この時計を実際のダイビングに使用するときには、ご使用前に正しく作動しているか点検をしていただくと共に、使用中においても本取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。
- ・ダイビングに関する安全教育やトレーニングを受け、それに従ったルールを守ってご使用ください。
- ・水深計測機能は専門的な計器としてのご使用はできません。あくまでも目安としてご使用ください。
- ・深度は、比重1.025の水(海水)中で、0 ~ 40 の範囲内の水温下でダイビングが行われるものとし、計測表示します。これ以外の条件下では、深度は正しく表示できません。
- また、大気圧の急激な変動や水中の環境が時計の性能に影響をおよぼすことがあります。他の計器などを併用することが必要です。
- ・潜水時間を無減圧限界時間への使用

3

大幅な気圧・温度変化のあるところや、水深計測保証温度範囲(0 ~ 40 °C)外で使用した場合、深度表示に狂いが出るばかりでなく、陸上においても「1.6m」以深の深度を示し、水深計測状態から抜け出すことができなくなりますので、リュウズを1段目まで引き出してください。

(30ページ「水深計測上の注意事項」参照)

これから潜水することで、記憶している2つのログデータの内、前々回のログデータが自動的に消えることとなりますので、ログブックなどに記録することをお勧めします。リュウズのネジロックが確実にしてあるか確かめてください。

ダイビング中

岩などの硬いものにぶつけないよう注意してください。

水中ではリュウズのネジロックをゆるめることや、リュウズを引き出すことは絶対しないでください。

深度針が正しく作動しているか確認してください。

深度1.6m以深を感知してからは、浮上速度警告音との誤認を避けるため、アラーム(ワンタッチアラーム)はキャンセルされます。

水深計測は毎秒行いますが、深度針が運針中には行いません。

浮上速度警告表示中(警告音鳴鐘中)は水深計測はできません。また、浮上速度警告が浮上の過程に感知した場合、警告を一旦中断し水深計測をしてから警告表示および警告音を出す場合があります。

水中では環境・携帯条件により、浮上速度警告音が聞こえにくい場合がありますのでご注意ください。

水深計測中に深度針が「58分位置」を示した場合、ただちにダイビングを中止するか、この時計の使用を止めてください。

5

製品の特長

この時計は、水深計測機能をもったスキューバダイバー用の時計です。

1. 全自動計測ダイビング機能

通常携帯からダイビングOK! オートスタート

- ・通常携帯のまま、ダイビングをしても自動的に水深計測を開始します。
- ・ダイビング前の基本的なチェックさえしておけば、ほかの操作は必要ありません。
- ・水分感知センサーと圧力センサーとで、いつでもスタートOK!です。

深度表示 3本の深度針がダイナミックな動きと共に深度情報を提供します。

- ・0.1m単位で1.6m ~ 55.0mまでの水深計測が可能です。計測の間隔は1秒です。
- ・現在深度は幅広い「深度針」と0.1m単位を12時位置の「1/10m針」とで示し、最大深度は、置き針式の「最大深度針」で、表示します。

時間管理 潜水開始から終了までの時間情報を記録します。

- ・深度1.6m以深を感知すると、その時刻を潜水開始時刻として6時位置の「小时計」が示します。
- ・同時に潜水時間の計測を始め、1/5分ステップで1周60分の表示をします。
- ・深度1.6m未満を感知すると、潜水時間の計測を中断し、10分以内は再潜水が行われるかの検出のため待機状態になります。

7

4. ワンタッチアラームアラーム機能

- ・約12時間先までのアラームセットができます。
- ・現在時刻からアラームセットできるワンタッチアラーム機能です。

5. 電池寿命切れ予告機能つき

- ・電池寿命が近づくと小秒針が2秒運針して知らせてくれます。
- ・安全のため計測スタンバイ状態では深度針を58分位置にずらし、水深計測ができないことを示します。

時刻の合わせかた

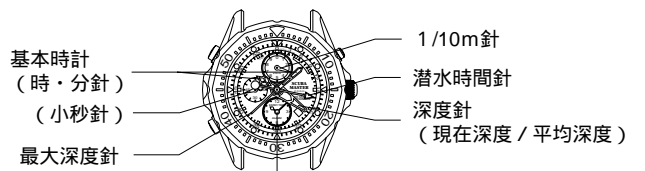
(基本時計とアラームの合わせと各針の0位置合わせ)

- ・この時刻のリュウズを2段目に引き出すと、いくつかの合わせが同時にできます。

リュウズ2段目のできること

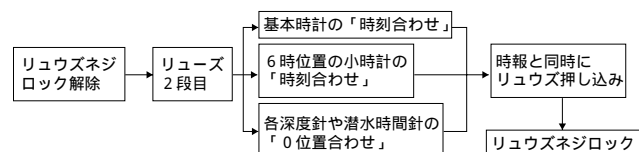
基本時計の「時刻合わせ」
6時位置の小时計の「時刻合わせ」
1/10m針、深度針、最大深度針、潜水時間針の「0位置合わせ」

- ・特に「基本時計」と「6時位置の小时計」はしっかりと合わせましょう。「6時位置の小时計」はログデータの潜水開始時刻として記録されます。
- ・以下の説明どおりに合わせると、「6時位置の小时計」の運針ステップを小秒針の「0秒」に合わせられます。



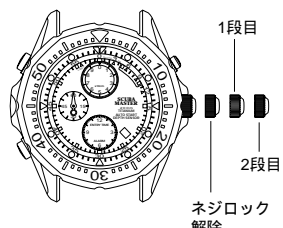
11

合わせの全体像

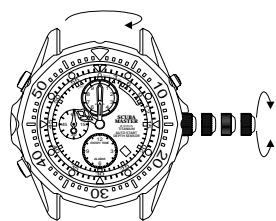


「3つの合わせ」についてはどの順番で行ってもかまいません。最後にリュウズを押し込むときに、時刻がスタートしますので、合わせ込む場合はやや余裕のある先の時刻に合わせておきましょう。「日付け」は単独で合わせできません。ここでは合わせません。

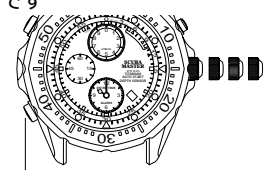
リュウズを左に回してネジロックをゆるめてください。小秒針が、ちょうど「0秒」の位置に来たとき、リュウズを2段目まで引き出してください。このとき基本時計は止まり、6時位置の小时計は現在時刻を示し止まります。各深度針と潜水時間針は0位置に進み止まります。



ここは基本時計の時刻合わせです。リュウズを回し時刻を合わせます。日付が変わるところが午前0時です。午前と午後を間違えないように合わせてください。合わせ時刻に対して4～5分進めてから戻して合わせてください。



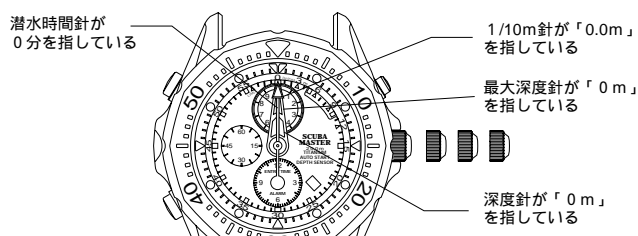
ここは6時位置の小时計の時刻合わせです。ボタンAを押して6時の小时計の時刻を合わせます。基本時計を合わせた時刻に合わせてください。この小时計には午前午後はありません。



ボタン A
1回押すごとに「1分」進みます。押し続けると早く進みます。

ここからは各深度針と潜水時間針の0位置合わせです

- 各深度針と潜水時間針の0位置がずれていた場合は、操作～を行ってください。
- 下図を参照にそれぞれの針の0位置が合っている場合は、操作へ進んでください。



0位置が合っている状態

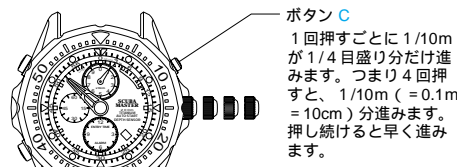
ボタン B を押して、潜水時間針を0位置(0分)に合わせます。

ボタン B
1回押すごとに「1/5分」ステップで進みます。押し続けると早く進みます。



ボタン B とボタン C は同時に押さないでください。

ボタン C を押して、1/10m針と深度針および最大深度針を0位置(0.0m)に合わせます。1/10m針と深度針は連動しています。1/10m針が1周すると、深度針が1m進みます。最大深度針は置き針式なので、深度針から右回転方向に押された場合にのみ動きます。最大深度針を深度針で連れて行き「0.0m」位置に合わせてください。



ボタン C
1回押すごとに1/10mが1/4目盛り分だけ進みます。つまり4回押しすと、1/10m (=0.1m = 10cm) 分進みます。押し続けると早く進みます。

深度針が「0m」付近では1/10m針が隠れてしまいますので、修正量がわかったらボタン押し回数を考えて合わせてください。ボタン B と C は同時に押さないでください。

すべての合わせが終わったら、合わせた時刻の時報を待ち、時報と同時にリュウズを押し込んでください。さらに押しつけながら右に回し、リュウズが止まるまでネジ込んでください。

日付の合わせかた

- 時刻合わせをした後、日付けを合わせ直すとき。
- 前月が小の月(1ヵ月の日数が30日の月と2月)で月始めの日付けの修正のときに行います。

リュウズを左に回してネジロックをゆるめてください。

リュウズを1段目に引き出してください。

水深計測中とダイビング後10分間はこの操作をしないでください。強制的に計測が中断され、書き込まれるログデータがエラーになります。

リュウズを左に回して日付けを合わせてください。

午後9時～午前1時の間は日付けの合わせはしないでください。合わせ修正ができなかったり、修正しても次の日付けが正しく送られないことがあります。



合わせ終わったらリュウズを押し込んでさらに押し付けながら右に回し、リュウズが止まるまでネジ込んでください。

ダイビング機能の使いかた

(水深計測、潜水時間計測)

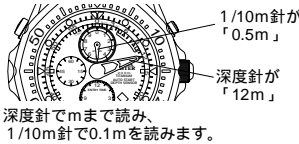
- 水深は0.1m単位で、1.6m～55.0mまで計測できます。計測は1秒毎に行います。
- 現在深度は「1/10m針」と大きな「深度針」とで示します。
- 潜水中の最大深度を置き針式の最大深度針で示します。(0.5m単位で1.5m～55.0m表示)
- 潜水時間は12時間まで計測表示が可能です。ログデータとしては2時間までが表示可能です。

それぞれの針の読みかたを覚えましょう!

- 基本時計の3本(時、分、小秒針)以外の6本の針がダイビング機能に関わる針です。
- 深度に関わる針が3本あります。(深度針、1/10m、最大深度針)
- 時間に関わる針は潜水開始時刻を示す2本(小时計)と潜水時間を示す1本(潜水時間針)です。

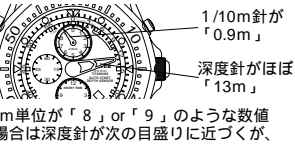
深度は「1/10m針」と「深度針」とで読み取ります

例. 現在深度12.5mの場合



深度針でmまで読み、1/10m針で0.1mを読みます。

例. 12.9mの場合



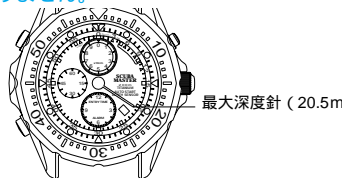
0.1m単位が「8」or「9」のような数値の場合は深度針が次の目盛りに近づくと、「13.9m」とは読まないこと。

最大深度は「最大深度針」で読みます

- 最大深度針は深度針に押され、最大深度位置に置かれます。
- 最大深度は0.5m単位で読み取ることができます。
- 最大深度針は、安全上の配慮からプラス方向のみ多少のずれの構造になっています。特に、0mを示すときは、携帯中の振動によって約1m程ずれる場合がありますが、故障ではありません。ボタンBを押して、「各針の0位置確認」をすれば戻ります。ずれた状態でダイビングを行っても最大深度針の表示には影響ありません。

例. 最大深度20.5mの場合

潜水開始時刻は6時位置の「小时計」で示します



最大深度針 (20.5m)

例. 潜水開始時刻が10時10分の場合

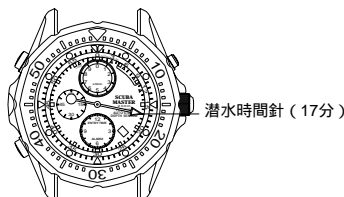
12時間制での表示のため午前午後の区別はできません。



潜水時間は「潜水時間針」で示します

- 長い「潜水時間針」は1/5分(12秒)ステップで動きます。
- 1周60分の分針の感覚で読み取れます。

例. 潜水時間が17分の場合

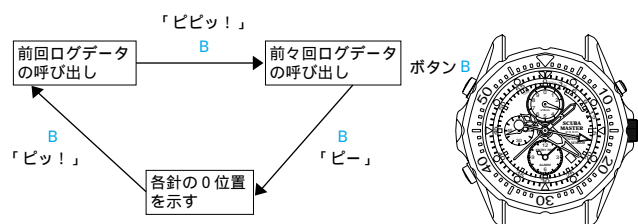


潜水時間針は1/5分ステップで運針しますが、読み取りは分単位で行ってください。

具体的な使いかた

- ダイビングに関わる針が、ログデータを表示中でも水深計測を開始します。
- より安全なダイビングを心がけるためにも以下の手順で針位置を確認してからダイビングにのぞみましょう。

まず、ログデータを読み出してみましょう。(35ページ「ログデータの呼び出しかた」を参照) ボタン B を押してログデータを読み出してください。ボタン B を押すたびに下図のようにログデータの呼び出しができます。1つのデータの呼び出しにはやや時間がかかります。



このとき、2つのログデータを各針が正しく示しているかを確認します。さらにその次の呼び出しで各針の「0位置」を正確に示すことを確認します。

この「0位置」表示がまさにダイビング前のベストな状態になります。

ダイビングを行っていない場合でもログデータは必ず2回分入っています。

(48ページ「電池交換後のお願い」参照)
ワンタッチアラームがセットしてあっても、ログデータ呼び出すことでキャンセルされます。
万一、0位置を正確に示さない場合は「時刻の合わせかた」の「0位置合わせ」(14ページ)をしてください。
水深計測が始まると2つのログデータの、前々回のログデータが消去されますので、ログブックなどに書き移すことをお勧めします。

各針の「0位置」に異常が無い場合は、そのままダイビングにご使用ください。
1.6m以深を感知すると初めて深度針などが動き始めます。

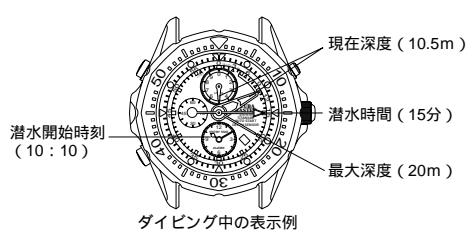


深度2.7mを感知している状態

22

1.6m以深の深度を感知してから潜水とみなし、潜水開始時刻の記録と潜水時間の計測を始めます。
ダイビングの前に各針を「0位置」にせずに潜った場合は、1.6m以深の感知後、各針が1回「0位置」に戻ってから深度等を示しますので、現在深度を示すまでに時間が掛かります。「0位置」を表示させてからのダイビングを心がけましょう。
ワンタッチアラームをセットしたまま、ダイビングをした場合は1.6m以深を感知すると同時に、ワンタッチアラームはキャンセルされます。

(39ページ「ワンタッチアラームの使いかた」参照)



ダイビング中の表示例

23

ダイビングを終えて

1.6m未満の深度を感知すると、潜水時間の計測を止め、深度は「0.0m」となります。この状態から10分間の行動によって状態が変わりますので2つの場合を説明します。

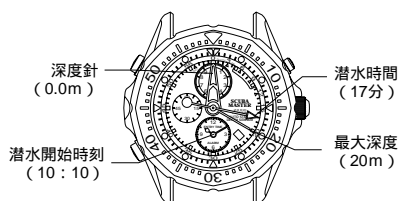
10分以内に再び1.6m以深の深度を感知した場合

継続的な潜水とみなし、それまでの経過時間(水面休止時間)が潜水時間に加算されます。

10分間1.6m未満の深度が続いた場合

1回の潜水が終了したとしてログデータを記録します。

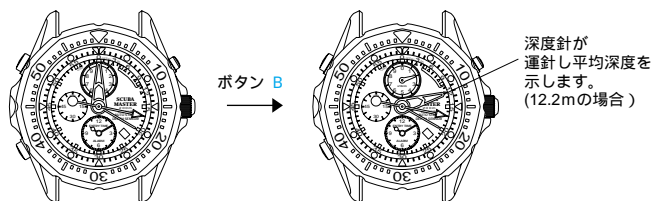
尚、その後1.6mを感知した場合は次の潜水として扱います。



潜水後の表示例

24

潜水後10分経過後、ボタンBのログデータの呼び出しが可能となります。今の潜水のログデータの「平均深度」以外は表示していますので、ボタンBを押した場合は深度針が平均深度を示すことで、前回潜水のログデータを表示します。



次のボタンBの操作からログデータの呼び出しとして通常に操作できます。

(35ページ「ログデータの呼び出しかた」参照)

次の潜水に際しては操作からはじめてください。

25

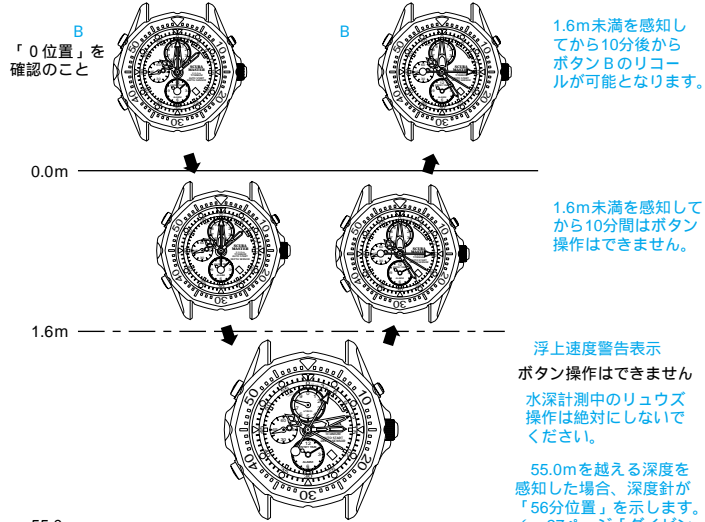
潜水後10分間はボタン操作ができません。よってログデータの呼び出しやワンタッチアラームは使用できません。

(35ページ「ログデータの呼び出しかた」参照)

(39ページ「ワンタッチアラームの使いかた」参照)

24

潜水の全体像



26

ダイビング警告機能について

- この時計には水深計測上での警告機能があります。
 - 浮上速度警告
 - 計測範囲外表示 (LIMIT)
 - 計測異常・計測停止表示
 - 潜水前のチェックや潜水中の深度情報に役立てることができます。
- 浮上速度警告
- 潜水中の浮上速度が18m / 分相当を越えた場合に警告を発します。
 - 実際には10秒ごとの深度を比較し、約3mを越える浮上に対して警告します。
 - 警告は警告音と「1 / 10m針」の動き(警告運針)とでお知らせします。
- 1 / 10m針の往復運針【警告運針】
(0.3mの間を往復します)

注意

あくまでも一定の基準を越えた際出すもので、その日の水温や体調により危険の度合いが変わります。行動の目安としてください。
この警告音は、ダイビング中の環境・携帯条件により聞こえにくい場合があります。

警告音(ビッ!)は断続的に約10秒間鳴鐘します。
深度針が現在深度に追いつかない状態で浮上速度警告を感知した場合は、警告運針は往復運針ではなく間欠運針になります。

27

計測範囲外表示 LIMIT

- 深度が55.0mを越えた場合、深度針が「56分位置」(LIMIT)を示します。
- 最大深度針も深度針に押され「56分位置」になります。



55.0mを越える深度を感知した場合の深度針位置

55.0m以深の深度を感知した潜水のログデータは、
最大深度(最大深度針)：56分位置(LIMIT)
平均深度(深度針)：56分位置(LIMIT)となり、
潜水開始時刻と潜水時間は計測した通りのデータになります。

28

- 計測異常・計測停止表示 異常発生!ダイビングにおける使用は禁止!
- 水深計測中にセンサーに異常を感知した場合、自動的に水深計測を中止します。
- 深度針は計測異常・計測停止位置の「58分位置」を示します。
- 潜水時間は、リュウズのネジロックをゆるめたり、リュウズを引き出したりしないでください。



水深計測中に異常感知した場合

異常を感知した潜水のログデータは、
最大深度(最大深度針)：0m位置
平均深度(深度針)：58分位置となり、
しかも潜水開始時刻と潜水時間は異常値となり記録としては使用できません。

29

水深計測上の注意事項

注意

水深計測について

- 0 ~ +40 の範囲でご使用ください。
- 電池寿命切れ予告の「2秒運針」になっていると、水深計測をしませんので、ダイビングに使用しないでください。
- 各針の「0位置」を確認した際、深度針が「58分位置」にある場合も水深計測をしません。
- 潜水中に深度針が「58分位置」を示した時は、水深計測に異常を感知し計測を中止したことを示しますので、速やかにダイビングを中止するかこの時計の使用を中止してください。
- 55m以深では深度針が「LIMIT」位置(56分位置)を示します。55m以深を感知した場合、「平均深度」が計算できなくなりますので、後で呼び出すログデータの「平均深度」は最大深度針と同じく「56分位置」を示します。
- 「1.6m」以深を感知してから潜水終了後10分はワンタッチアラーム機能がはたらきません。
- この時計の水深計測は海水(比重1.025)を基準に深度を計算しておりますので、淡水などにおいて使用した場合は、実際の深度より浅く表示されます。
- 携帯温度と水温とに極端な差(直射日光下に放置された時計を水中に入れる場合など)がある場合には、正確な水深計測はできません。ご使用前に時計を水に約5分程度浸してからご使用ください。
- 大幅な気圧・温度変化のあるところや、水深計測保証温度範囲(0 ~ 40)外で使用した場合、深度表示に狂いが出るばかりでなく、陸上においても「1.6m」以深を表示する場合があります。この時、ボタン操作もできなくなります。

30

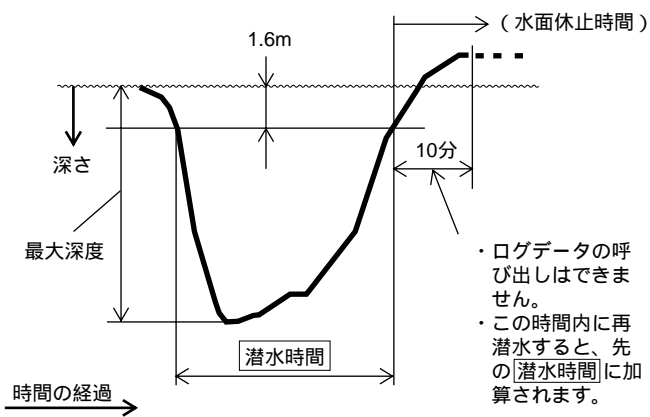
強制的に水深計測を中断する場合 必要が無い場合は絶対に行わないこと!

- リュウズネジロックをゆるめます。
- リュウズを1段目まで引き出してください。
- 水深計測が強制的に中断されます。このログデータは異常値として記録されます。
- リュウズはもとの状態に戻しておいてください。
- 特に航空機に搭乗した場合は気圧の変動を受けるので、水分感知センサーに指などが触れることで、水深計測を開始する可能性があります。
- ケースについたゴミ・砂等の異物は真水で洗い流してください。取れない場合は、お買い上げ店、またはセイコー取扱店にご相談ください。
- ケースにガソリン・アルコールなどの薬品が触れると、内蔵されているセンサーの故障の原因になりますのでご注意ください。
- 潜水中は、リュウズのネジロックをゆるめたり、リュウズを引き出したりしないでください。

潜水開始時刻と潜水時間について

- 1.6m以深を感知してから潜水として扱い、潜水開始時刻をその現時刻とします。潜水時間の計測もこの時スタートします。
- 1.6m未満を感知すると一旦潜水時間の計測を中止します。その後10分以内に1.6m以深を感知しなければ、潜水時間を先ほどの中止した時間で確定させます。この10分以内に1.6m以深を感知すると潜水が継続しているとして、一旦中止した潜水時間に中断していた時間を加算して時間計測を再開します。
- 深度1.6m付近を上下した場合、最後に1.6m未満を感知して10分以上その状態が続いた場合1回の潜水として扱います。その後1.6m以深を感知すると次の潜水として扱います。

31

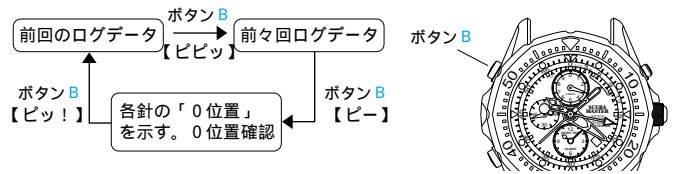


深 度	水深計測して算出した水深値をいい、1.6mから深度針が示し始めます。1.6m未満の時は0.0mになります。海水（比重1.025）を基準に最大55.0mまで0.1m単位で示します。
以 深	ある深度を含むそれより深い領域のこと。
以 浅	ある深度を含むそれより浅い領域のこと。
未 満	ある数値を含まないそれより小さい数値の領域のこと。
潜 水 時 間	深度1.6m以深を計測している間の時間をいいます。つまり潜りはじめて深度1.6m以深になった時点から、浮上し深度が1.6m未満になった時点までの時間となります。潜水時間針は1 / 5分（12秒）単位で運針し、最大12時間まで計測します。それを越すとすべての計測を終了させます。1.6m未満を感じてからの経過時間（水面休止時間）が10分未満での再潜水は前回の潜水からの継続とみなし、前回潜水時間と水面休止時間を合わせた時間から潜水時間の計測を再開します。

潜水開始時刻	潜水し、深度1.6m以深を感じた時刻。6時位置の小时計で示します。
水面休止時間	浮上し、深度1.6m未満となった時点からの時間をいいます。（本製品には直接読める表示はありません）
最大深度	1回の潜水中で計測した最も深い深度のことをいいます。
平均深度	潜水中の深度を平均化したもので、実際には計測した全深度データをデータ数で割ったものです。
浮上速度	深度が小さくなる速さをいいます。この速度が速すぎると危険がおよびますので、18m / 分相当を越えると警告を発します。

ログデータの呼び出しかた
(2回分のログデータと針0位置確認)

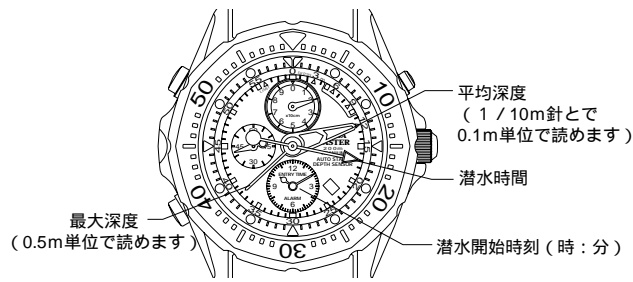
- 自動的に記録されたログデータを確認することができます。
 - 2回分のログデータとして潜水開始時刻、潜水時間、最大深度、平均深度を記録しています。
 - ログデータの呼び出しと潜水情報を示す「針の0位置」の確認ができます。
- ボタン B を押すとログデータの呼び出しができます。ボタン B を押すたびに、下図のような順番でログデータと「0位置」を示します。



確認音について
このときボタン B の操作とともにそれぞれ確認音になりますので、音からもとの呼び出しが分かれます。
「ビッ」：短い確認音 最新ログデータを読み出すとき
「ビビッ」：連続した2つの確認音 古いログデータを読み出すとき
「ビー」：比較的長い確認音 各針の「0位置」を示すとき

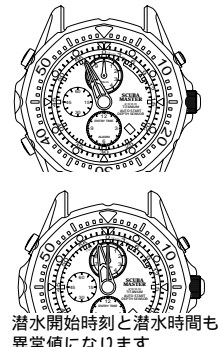
潜水後10分間はこの操作はできませんので、ご注意ください。
潜水後10分経過してはじめてボタン B を押した場合、最新ログデータを示すのですが、深度針が「平均深度」を示す以外はすでに針がその位置にありますので、深度針だけが動くことになります。（「ダイビング機能の使いかた」の「具体的な使いかた」（20ページ）を参照）
ワンタッチアラームをセットしてある場合はこの操作でキャンセルされますので、各針の0位置を示し終わってからアラーム時刻を合わせ直してください。（「ワンタッチアラームの使い方」（39ページ）参照）

ログデータの読みかた
・ダイビング中とほぼ同じ表示のしかたです。
・深度針が、「ダイビング中の現在深度」から「ログデータの平均深度」に変わります。



ログデータにおける最大深度針の深度針の表示内容

- 最大深度針と深度針（平均深度）が2本とも「56分位置」を示す場合
解説
これはこの潜水中に55.0mを越える水圧を感じたことを示し、最大深度および平均深度が表示および計算できないことを示します。潜水開始時刻と潜水時間は正確です。
- 最大深度針は「0m」、深度針が「58分位置」を示した場合は、
解説
潜水開始から潜水後10分間までに水深計測上なんらかの異常を感じたことを示します。この場合のログデータは異常値となりますので、記録としてはご使用しないください。

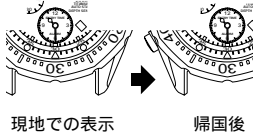


ログデータにおける小时計と潜水時間針の表示内容

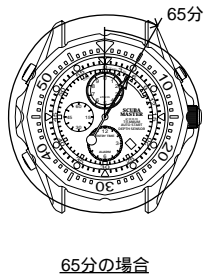
- 小时計が潜水開始時刻を12時間制で示します。
・小时計は12時間制でのみ示しますので午前・午後は表示できません。



b. 潜水を開始した時刻は、その後時刻合わせをし直しても記録した時刻は変わらず表示できます。
例 グアム島に旅行し、現地時間に合わせてからダイビングをした。現地時間10:30潜水開始時刻のログデータが記録され、日本へ帰国。当然、日本時間に合わせ直す。その後、ログデータを読み出すとそのログデータは潜水開始時刻10:30と示します。



c. 潜水時間針は2時間までの潜水時間を示します。
・計測は12時間まで可能ですが、ログデータとしては、2時間までの表示しかできません。
・潜水時間針は1周60分ですので、それ以上は1周以上回って示すことになります。
例 ログデータに65分の潜水時間が記録された場合、呼び出しのボタン操作で潜水開始時刻を小时計が示した後、潜水時間針が動き始めます。1周以上回って5分位置に留まり、「65分」を示します
2時間以上の潜水時刻を記録した場合2時間の表示（潜水時間針が2周回って0分位置で停止）となります。



各針が「0位置」を示しているとき6時の小时計は基本時計と同じ時刻を示します。
基本時計の時刻と小时計の時刻が合っていない場合は時刻合わせをし直してください。



(11ページ「時刻の合わせかた」参照)
ボタン A を押すとアラーム時刻がセットできます。ボタン A を1回押すことに小时計が1分ずつ進みます。アラームを鳴らしたい時刻に合わせてください。押し続けると早く進みます。

アラーム時刻は進む方向にしか合わせられませんので、進み過ぎた場合は、もう一度約12時間分進めて合わせてください。

ボタン A を押し続けて現在時刻に一致した位置に留まりますので、ボタン A を押し直し、合わせ直してください。

(41ページ「ワンタッチアラームのキャンセル」参照)



ワンタッチアラームの使いかた
(1分単位12時間以内のアラーム)

- 6時位置の小时計は通常アラーム小时計として使用できます。
- 約1分先から12時間以内のアラームセットが可能です。
- 現在時刻からアラーム時刻をセットできるので間近のアラームセットに便利です。
- 1回鳴るとアラーム時刻は自動的にキャンセルされます。

このワンタッチアラームで使用する6時位置の小时計は、ダイビング機能の潜水開始時刻の表示を優先するので、ログデータの呼び出し等においてはセットしてあるアラーム時刻がキャンセルされます。ダイビングに関わる針が「0位置」の状態では、アラームをセットし、アラーム設定時刻まで、ログデータの呼び出し等を行わない場合のみ使用可能です。ダイビングに使用した場合も自動的にキャンセルされます。

ワンタッチアラームの合わせかた
ボタン B を押して、各針の「0位置」を表示させてください。（35ページ「ログデータの呼び出しかた」参照）
比較的長い確認音「ビー」と鳴る呼び出しが「0位置」表示となります。潜水後10分間はボタン B の操作ができません。

ワンタッチアラームをセットした時刻になると、アラームが20秒鳴ります。

セットした時刻になる前に、ボタン B を押してログデータを読み出したり、ダイビングを行うとワンタッチアラームはキャンセルされます。ボタン A が押されるとアラーム設定時刻が進んでしまいますのでご注意ください。

鳴っているアラーム音を止めたいとき

鳴っているアラーム音を止めたい場合は、ボタン A、B、Cのいずれかを押し下さい。

ワンタッチアラームのキャンセル

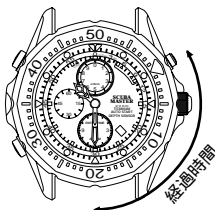
- セットしてあるワンタッチアラームをキャンセルしたい。
方法1 : ボタン B を押し、ログデータの呼び出しをする。
方法2 : ボタン A を押し続ける。小时計が現在時刻と一致すると小时計はそこで留まります。
- 合わせ直す場合は39ページ「ワンタッチアラームの合わせかた」に従って合わせ直してください。

回転ベゼルについて

- ・回転ベゼルの「 」マークを分針に合わせて、その時点からの経過時間をベゼル上の目盛で読み取ることができます。
- ・潜水開始時に、合わせて潜れば、潜水時間の計測ができます。
- ・この時計には1.6m以深の潜水時間を計測する機能がありますので、必要に応じて水面休止時間の計測などにご使用していただけます。

経過時間の測定

回転ベゼルの左に回し、「 」マークを分針に合わせて。ある時間が経過した後に、分針の指す回転ベゼル上の目盛を読めば、その時点での経過時間がわかります。



左図は例として10時10分に測定開始し、20分経過したことを示しています。

回転ベゼルは時計と逆方向にしか回りません。
また、1 / 2分単位のクリックがついています。

42

電池についてのお願いとご注意

警告

1. お客様は、時計から電池を取り出さないでください。
2. やむを得ずお客様が時計から電池を取り出した場合は、電池は直ちに幼児の手が届かないところに保管してください。
3. 万一飲み込んだ場合は、身体の害があるため直ちに医師と相談ください。

注意

1. 破裂、発熱、発火などのおそれがありますので、電池を絶対にショート、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。
2. この時計に使用している電池は、充電式ではないので、充電すると液漏れ、破損の恐れがあります。絶対に充電しないでください。
3. 「5 - 35」からはずれた温度」下で長時間放置すると電池寿命が短くなる場合があります。

44

2. 電池について

(1) 電池寿命

この時計は、新しい正常な電池を組み込んだ場合、その後約2年作動します。

ただし、アラーム1日15秒、水深計測を1回1時間使用で年50回を基本としていますので、それ以上使用した場合は、2年に満たないうちに容量が切れることがあります。

(2) 最初の電池

お買い上げの時計にあらかじめ組み込まれている電池は、機能・性能をみるためのモニター用電池です。お買い上げ後、上記の年数に満たないうちに電池寿命が切れることがあります。

電池寿命が切れた場合、保証期間内であっても電池交換は有料となります。

46

「ルミブライト」について

[お買い上げの時計がルミブライトつきの場合]
「ルミブライト」は、放射能等の有害物質を全く含まない、環境・人に安全な蓄光（蓄えた光を放出する）物質です。

ルミブライトは太陽光や照明器具の明りを短時間（約10分間：500ルクス以上）で吸収して蓄え、暗い中で長時間（約5～8時間）光を放つ夜光です。

警告

なお、蓄えた光を発光させていますので輝度（明るさ）は時間が経つに従ってだんだん弱まってきます。また、光を蓄える際のまわりの明るさや時計との距離、光の吸収度合により、光を放つ時には多少の誤差が生ずることがあります。特に暗い環境での潜水の際は、光が十分に吸収されていないと水中で発光しない場合があります。最低でも上記条件の光をあてるか、水中ライトを併用して潜水される様、十分ご注意ください。

照度データ（目安値）

A太陽光〔晴天〕100,000ルクス〔曇天〕10,000ルクス
B屋内（昼間窓際）〔晴天〕3,000ルクス以上〔曇天〕1,000～3,000ルクス〔雨天〕1,000ルクス以下
C照明（白色蛍光灯40Wの下）〔1m〕1,000ルクス〔3m〕500ルクス（通常室内レベル）〔4m〕250ルクス

43

1. 電池寿命切れ予告機能

- ・電池寿命切れが近づくと小秒針が2秒運針（1回に2秒ずつ運針すること）します。2～3週間中に時計が止まる可能性がありますので、お早めに電池交換をしてください。
- ・この2秒運針中ではダイビング機能（水深計測）がまったく作動しませんので、ダイビングには絶対に使用しないでください。
- ・各針の「0位置」を表示させた場合、深度針のみが「58分位置」を示して異常であることを示します。ただし、ログデータの呼び出し中は深度針がこの「58分位置」には進みませんのでご注意ください。



各針の「0位置」表示中の場合

小秒針が2秒運針中でも時刻は正確です。

記録しているログデータの呼び出しはできますので、時計が止まってしまう前にログブック等へ書き移すことをお勧めします。（「電池交換にあたって」参照）

2秒運針中ではワンタッチアラームは鳴りません。

45

(3) 電池交換

この時計は、電池交換する時や、電池寿命が切れた場合、それまで記憶していたログデータが消去されますので、あらかじめ保存しておきたいログデータは書き写しておくことをお勧めします。
影響を受けるのは2回分のログデータです。

ダイバースウォッチは潜水に使用されるため、電池交換にあたっては厳重なチェックが必要です。

電池交換の受け付けはお買い上げ店、またはセイコー取扱店でいたしますが、交換作業はすべてセイコーサービスセンターで行います。

時計は取扱い店からセイコーサービスセンターに送付され、電池交換と同時に防水性、パッキン検査・交換、水深計測検査などを実施しますので、10日間前後のお預かり期間と、電池交換費用のほかに費用がかかる場合がございます。

電池寿命切れとなったまま長時間放置すると、電池からの漏液などで故障の原因になりますので、お早めに電池交換をしてください。

47